

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

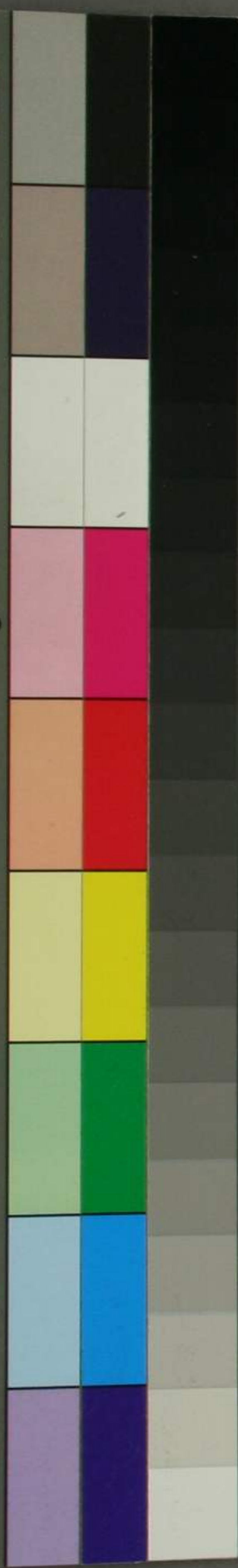
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



187
7

歌仙伝記
余英
七



芸草堂

合巻録

本久

東京書局
東京書局
東京書局

於13
187
7

後編 奴の小ぢん七の巻

し子ひこおひ

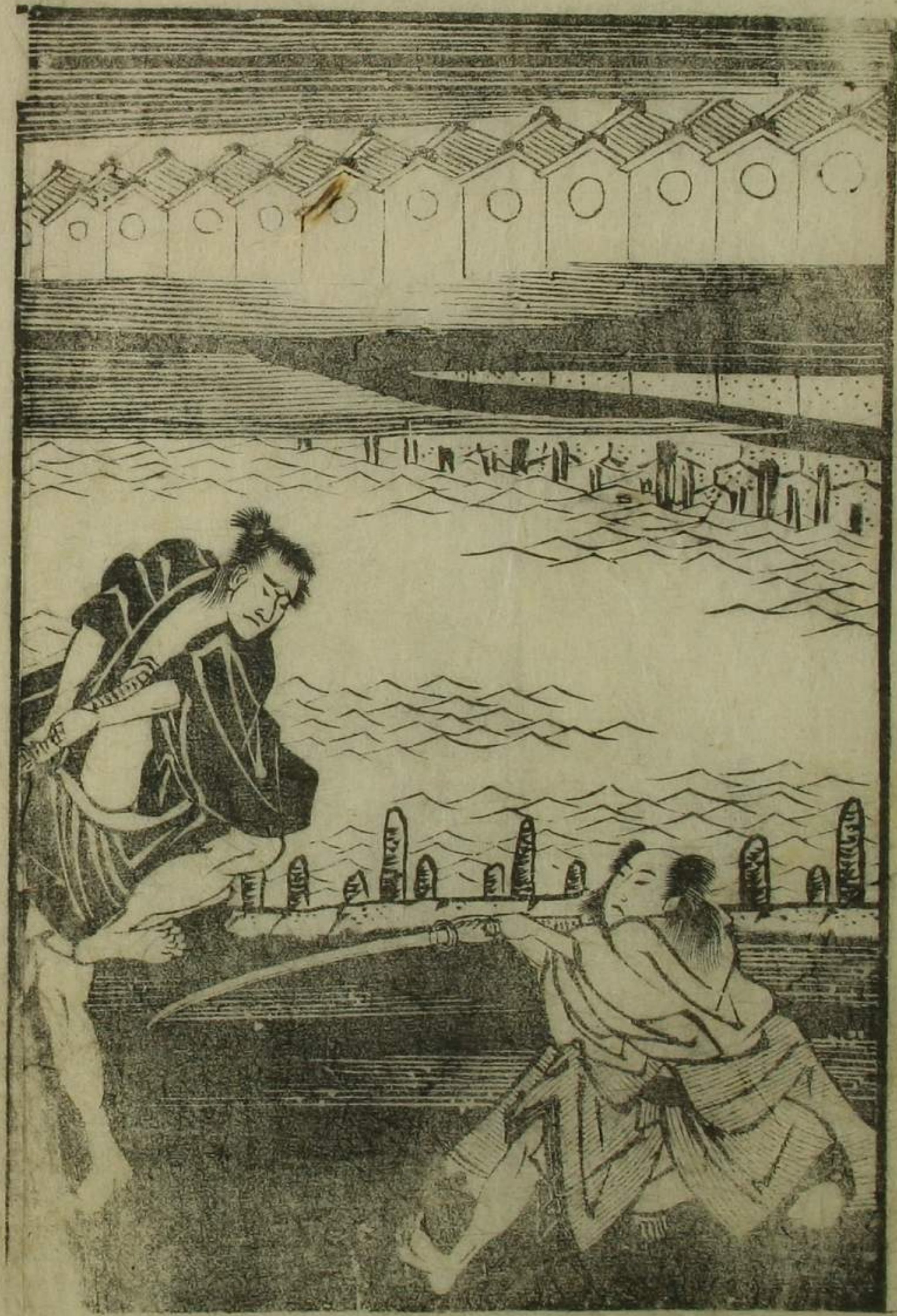
四 孝子 雅波 小仇を報ふ

そのちのちをいへりありとそふか。小ぢん五良八雅波
おもむき。忠を門のりとも小只管りこま庄兵衛の
行方ととづねもとめり。五良八の近きやがも親孝の
まがごふへ生長成りうば。かもしその男ふの
びと。唐やまとの書いさるび得ことと紐解き
熟せど。あのれそ人仇人ふいぐあひして。こころもと

小ぢん七の巻

あつくこもり。夜行のこあして其年ものまき又赤る春
のころやありん。庄兵衛九助小場の内ふりまらり。
とやたそぐれりまば。くめあくるまもあるゆと大
に橋のそつづめ人毎より俵とるごあげ。えんごう
らみ杉よりみつめあげりり。かろけるところへ五良八
常のまき喜兵衛をひきまされ通りりり。れん
九助庄兵衛が袖をひきま。此頃りまこのある五良八
とりりる。ああの男よりとりま。庄兵衛よりりりて執
えんごう。男姿とありたれども。志のよあまされま

まきつづま。此奴より殺しつづまの憂とまきつづま
九助の母どまきつづま。五良八からりりり。五良八
よく身とまきつづま。庄兵衛が捧ハまきつづま大地と
おみりり。五良八庄兵衛よりとえりりり。大おより
らび柄ふりまきつづま。まきつづま。や殺しつづま
庄兵衛。まきつづま。みまきつづま。らんと。まきつづま
にどまきつづま。打にららけりり。我女とつけあま
と何者か告ごうとめりり。往年母様まきつづま
害せしも。汝ごまきつづま。追りり。まきつづま。まきつづま



あく。人殺し一ふりつゝとて逃るるのの。思ひぬ懐
我とてうとて。四方とてうけのぐりうと割りりる。
かゝるところへ忠右門の汗もあつたにうの素り。ひ
らゝる人とてひりつゝ。庄兵衛とて付とる。格
子とてさう。大あつらひ。西人みひらひ。あつたうけ
我も喜兵衛みあづけ。ちが家みくらう。庄兵衛
が首を佛あふ子向う。いさうとて打のおもひ
さう。庄兵衛へらう。其後うりやべうとてひけ
れの五良八実もとあひひ。奴の小きんも先ふ

さく。三。大手とありてあゆむ。扇風とてさう。
かくもさう。大勢も。風も。逆さう。大浪の
左右へらう。とらう。れりり

五 暗夜み走る情孔とるじ

おも小きん五良八のいそ。家みくらう。母様も
女さう。木位牌と机上みくらう。庄兵衛が首
さう。ふらとて。五良八のうらぶらとてひらさ。ち
おぼく。が。その伽羅とらう。いさう。うらあ

火盒ひつれふらふせりれば。小太へも守まもりてくるとひく死。
まらやふつてくると小正おのりく同木どうぎくりればいし私わたしの
おとろよと長八ながはちひひ。君きみりよこの火盒ひつれあく
うたひひの世よあすれう。英えい熟香じゅくかうのな名な
香かうあひひとや。ひひく。このかたかた木ぎと所ところ
おろくもひく。とひひと。五ごはらひと
くひひ。借か志しとらひひ。田で々々あす人のひとも
つて物ものごとくあれど。庄兵衛しやべゑとらんく木き
意いとさげくく。つてくとも益えき。と

人ひとよやさん。我父わがちちいもこのまりの絶人つてつじん。秋田あきた
城しろ之助のすけ宗景むねかげ。とうり入江いりゑの徳次とくじ良よとのあものく。
このまへ横よこぐとい父ちちの徳次とくじ良よが側室わきむろあつて室むろ
ハ唐衣からぎぬといひく。彼か徳次とくじ良よ一人ひとりのむいひ
あり。され弟あにあつて我われとく入江いりゑの家いへとらん
りやせんと。徳次とくじ良よが妬心どしんとあつて。女子むすめとくあ
飲のみく。もく。此身このみのまひと。門かど東とう太たと
ワの武士ぶしのまひと。とく入江いりゑの家いへとらん。宗景むねかげ公こうは録りく
叛かへの刻ときが。我父わがちち翁おきなが谷やあつて切服きせつを。その

成る割ハ。十三夜の十三とニツおころら。五と八と
う。まふ良夜の良とりぬ。五良八とあつた
めくも良夜のうまぬれしをり。あひひりぞ
我姉も西風とあひだ名あへ。小ぢんとり
ひひりう。母の物うりあへ。此年う
のらちやう。小ぢんと。小ぢんとを実ふら
のらまれと。あひひり色。まとも仔細に譲り
小ぢんとあつる涙とく。うらみ涙もふけ
りれ。忠右門がかりうらまへ。跡戸のりり休

り人と。五良八がもととれど。心のうらみ火とあ
るうらみ。五良八のゆりおもあへ。時夜あへ
私語も。小ぢんが耳あへ。修羅のつらげあひ
人とあひり。里の犬も畜生道のうらびと。来世の
苦患あへり。とくひひこ。五良八のぬみ
りつくとうらみ。むそふ臥戸とあひひり。さ
らうらまへ。書を。尺八の笛あひひり。五良八の枕も
とふまげり。あへり。中町とこらりり。何
地と的あへり。中町とこらりり。何

いふし

十一



るく曉つぐる寒山寺のうもふのうふ枕おとら。五
 八ふつと目とさき。四壁とさき。忠孝門のり。さ
 りこぬとおがしく。家内蕭然としてみもあへ。小
 ぢんも卧戸おあへるをいぶらり。みさいてんとなく。
 尺八おむむびらる書とひろいあけ。よとら。さき
 にうらあへるさ。さき。女房小ぢんこそ。異服の姉
 びら。さき。面目まきにさき。死とく。さき。さき。
 此のさき。さき。さき。彼お。さき。さき。
 此のさき。さき。さき。此のさき。さき。さき。さき。

づれの顔ともて。人お面とら。さき。曾根の
 さき。さき。さき。さき。さき。さき。さき。さき。

つらびに憐れびづく。おきんが命の危きこと。譬はらね夜
 の間ふつもる春の雪時をててててて。螢火のあく
 ればらつて。身の上とまげき。悲しき。薄く。曾根等の
 森のわらう。身をまごんと。彼野の川原に立ち。わらう。一
 の男。わらう。人目をつつ。心と見え。月。え。わらう。ね。松が根
 お体。わらう。か。思。も。ど。顔。を。わ。ま。ま。れ。は。是。則。五。良。八。
 互。お。赤。う。ま。う。う。う。鳥。を。袖。を。り。く。あ。わ。ひ。胸。を。ぐ。せ
 にく。く。涙。お。じ。せ。び。く。一。切。言。葉。も。う。く。念。佛。教。遍。
 唱。つ。く。川。端。お。立。う。り。く。あ。ら。わ。二。人。ハ。身。を。没。ん。こ

後編奴小万物語

七之巻 巻鉄

